

平成30年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 SSHの成果や骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。
------	---

出席者		
	学校関係者	名
	生徒	名

学 校 自 己 評 価					平成30年度目標			平成30年度評価 (月 日 現在)		
罫	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度の課題と改善策			
1	◇生徒全体に学習面はもとより、部活動、委員会、生徒会活動、学校行事に意欲的に取り組む基盤がある。地域との連携事業の積極的な推進や行事、部活動、ボランティア活動等への関わりをとおして、高い志を持った次世代のリーダーとしての素養を高める必要がある。	次世代のリーダーとしての素養向上	①地域との連携 ・中学校の夏休み学習教室指導等への協力 ・小学校の学習支援、水泳教室等への協力 ・保育・福祉施設等でのボランティア ②国際交流の推進 ・グローバルリーダー育成事業派遣 ・NZ姉妹校交流受け入れ ③学校行事・委員会活動・部活動の推進 ・文化祭、体育祭等の委員会活動 ・部活動をとおした志の育成、リーダーとしての素養の向上	①地域との連携事業参加生徒が意識を高めることができたか。 ②国際交流事業に参加した生徒のリーダーとしての素養が高まり、全校生徒の意識向上が図れたか。 ③生徒が主体的に取り組み、学校行事や委員会活動を運営できたか。 ③関東大会以上の大会等に10以上の部活動が出場・出品できたか。						
2	◇SSHの成果や骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、学校を活性化する取組につなげていくために、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の向上に向けた授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①研修会や公開授業による新学習指導要領に対応する授業改善 ②骨太リーダー育成事業等の活用 ・骨太・探究プログラムへの参加生徒の経験や知識などの全校への波及 ③探究活動の授業等をとおした思考力・判断力・表現力等の育成	①外部の教員研修、先進校視察等に参加し、研修会を行い、校内における授業の工夫・改善ができたか。 ②参加生徒の意識向上と報告会による全校生徒の意識向上が図れたか。 ③授業アンケートで意欲的に授業に取り組む生徒の割合が90%以上あったか。						
3	◇大学進学実績では一定の成果をあげているが、さらなる向上が期待されている。生徒一人一人の第一志望の実現に向けて、大学入試改革に対応した進路指導、学習指導の方法の工夫改善を行う必要がある。	進学実績の向上	①きめ細かい進路指導や補習の実施 ②大学入試改革等への対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有	①現役大学合格実績目標値 国公立 60名、早慶上理 ICU 30名、G-MARCH 100名 ②大学入試改革等への対応策の検討ができたか。 ③大学入試改革関連の研修会等に参加し、情報共有しながら指導に活かされたか。						
4	◇自らを律した行動のできる生徒の育成について評価をいただいている。一方で、個々の生徒に対するきめ細かな支援が必要である。 ◇地域の伝統ある女子高としての姿を示すため、広報活動の一層の充実を図る。	生徒指導の充実	①整容指導と挨拶励行の組織的な啓蒙指導 ②専門機関と継続的に連携したきめ細かい個別の指導	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。						
		広報活動の工夫改善	①学校説明会や学校見学会、中学校や塾等主催の説明会の活用 ②学校ホームページの一層の充実	①本校の魅力を十分に発信し、入試倍率に反映できたか。 ②学校ホームページへのアクセス数が昨年以上に増えたか。						

学校関係者評価		
	実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		